

## 前回の分科会の指摘事項に対する回答

### 1 調査の目的は何か。また、本分科会の役割の範囲を明確にすべき。

- ・ 調査は、①医療区分、ADL区分、認知症加算の妥当性の検証、②職員配置、患者構成、コスト、医療の質等の診療報酬改定後の変化等の検証を目的とする。
- ・ 本分科会の役割は、調査を企画・立案するとともに、その結果を分析し、必要に応じて区分の見直し等を検討するまでであり、その後の、診療報酬の設定の在り方等については中医協において検討する。

### 2 医療区分ごとのコストに、どの程度の開きがあったのか、前回の調査結果を開示してもらいたい。

- ・ 別紙参照

### 3 医療区分1の位置づけを明確にしていきたい。

- ・ 医療区分は、慢性期入院評価分科会の調査結果に基づき、医療の必要性に応じて3段階に区分したものであり、医療区分1は、相対的に医療の必要性が低い区分として位置づけられたもの。
- ・ ①医療区分1は相対的に医療の必要性が低い区分であり、約5割を占めていること、②「慢性期入院医療実態調査」の結果により、療養病床において「医療的な状態は安定しており、医師の指示はほとんど必要としない」患者が約5割占めていることが明らかであることから、医療区分1の患者は「医療的な状態は安定しており、医師の指示はほとんど必要としない」患者であると見なし得ると考えている。

### 4 「区分の妥当性」は、どのように検証するつもりか。

- ・ 「区分の妥当性の検証」においては、9区分及び5区分の両区分について検証することとし、同一のグループに分類された患者について、臨床面、コスト面の同一性が確保されているか否かを確認する。

5 退院可能であるにもかかわらず、退院できない患者がどの程度いるか、また、どのような理由で退院できないのか、についても調査すべきではないか。

- ・ 調査項目に追加する。併せて、退院できない患者が多数入院している療養病床の今後の方向性についても調査する。

6 急性期医療からの患者の受け入れに変化があったかどうかについても、調査すべきではないか。

- ・ 前回は直近2週間の新規入院患者の調査を実施しているので、今回も同様の調査を実施することにより検証が可能である。

7 ケア時間の変化については、慎重に分析していただきたい。

- ・ ケア時間の分析の際に十分配慮する。

8 療養病床の現状を調査するだけでなく、今後の療養病床が持つべき機能についても、現場の実践者からの意見を聴取する等により、調査していただきたい。

- ・ 調査項目に追加する。

9 今回の改定後、書類作成の負担が著しく増えているので、調査項目に加えていただきたい。

- ・ 調査項目に追加する。